

金曜ピラ

発行2021年(420号)

9月17日

次回は10/1

もう原発やめよう！

スペースたんぽぽ

学習会・デモの日程



たんぽぽ舎

TEL 03-3238-9035

FAX 03-3238-0797

Mail: nonukes@tanpoposya.net

〒101-0061

東京都千代田区神田三崎町

3-1-1 高橋セーフビル1F

原発廃止ひと筋32年・たんぽぽ舎は皆さんの会費とカンパで運営されています。会員になられる方歓迎！
(たんぽぽ舎の会費は6ヶ月6000円、月1回ニュース発送) 郵便振込 00180-1-403856 (加入者名:たんぽぽ舎)

9月30日(木) 9・30「東海村JCO臨界事故から22年」追悼と抗議

経産省別館前 10:00~11:00

多くのご参加を！

事故の教訓を生かせない政府に抗議を！ 放射線被ばく事故の原点から、考えよう！

○内容：経過説明

抗議アピール

黙祷(事故発生時刻 10:35~)

献花—追悼の花を用意します。

10月6日(水) 2つの抗議行動にご参加を！

★日本原電本店申し入れ抗議行動 時間 17:00~17:45

「老朽原発再稼働するな！」「東海第二原発うごかすな！」

場所：日本原電本店前(JR秋葉原駅昭和通り出口より徒歩7分)

主催：とめよう！東海第二原発首都圏連絡会/協力：再稼働阻止全国ネットワーク

★「第97回東電本店合同抗議」 時間 18:30~19:30

「フクシマ事故は終わっていない」「汚染水を海に流すな」「被害者に補償しろ」

※東京電力への申し入れも行っています。申し入れ書をお持ち下さい。

東京電力本店前(JR新橋より徒歩7分 都営地下鉄内幸町より5分)

よびかけ：経産省前テントひろば/たんぽぽ舎 賛同：東電株主代表訴訟など139団体

9月の学習会・行動案内 参加歓迎！

(学習会は「スペースたんぽぽ」)

9/17 (金)	抗議 行動	第4回「原発いらない金曜行動」(首相官邸前) 18:30より19:45 福島第一原発放射能汚染水を海へ流すな！ 老朽原発再稼働するな！ 東海第二原発をうごかすな！ 主催：「原発いらない金曜行動」実行委
9/30 (木)	抗議 行動	「9・30 東海村JCO臨界事故から22年」(経産省別館前) 追悼と抗議集会 10:00より11:00(事故発生は10:35頃) JCO臨界事故を忘れるな！ 東海第二原発をうごかすな！
9/30 (木)	学習会 講座 No706	「韓国キャンドル革命の決算期—来春の大統領選挙と日本」 19時より21時 予約必要です お 話：青柳純一さん(翻訳家・金起林記念会共同代表) 参加費：800円

10月の学習会・行動案内 参加歓迎！

(学習会は「スペースたんぼぼ」)

10/6 (水)	抗議 行動	とめよう！東海第二原発20年運転延長・再稼働許すな！ 日本原電本店抗議行動 (JR秋葉原駅昭和通り出口より徒歩7分) 時間 17:00~17:45 主催:とめよう！東海第二原発首都圏連絡会/協力:再稼働阻止全国ネットワーク
10/6 (水)	抗議 行動	東電は原発事故の責任をとれ「第97回東電本店合同抗議」 時間 18:30~19:30 よびかけ:経産省前テントひろば/たんぼぼ舎 賛同:東電株主代表訴訟など139団体
10/14 (木)	学習会 講座 No703	「幻想の新型原子炉」 高温ガス炉と小型原子炉 <u>予約が必要です</u> お 話:後藤政志さん(元東芝原子炉格納容器設計者) 18時より21時 講師のお話は19時からです 参加費:800円
10/15 (金)	抗議 行動	第5回「原発いらない金曜行動」(首相官邸前) 18:30より19:45 福島第一原発放射能汚染水を海へ流すな！ 老朽原発再稼働するな！ 東海第二原発をうごかすな！ 主催:「原発いらない金曜行動」実行委
10/18 (月)	学習会 講座 No706	岩垂弘さん「8回連続講座」14:00~16:30 予約の必要はありません 社会運動は社会を変えられるか 戦後76年を社会運動を通じて顧みる 第6回「核軍拡競争下の運動」 被爆者救援、国連軍縮特別総会に向けて (1977~1986) お 話:岩垂 弘さん(ジャーナリスト) 資料代:800円
10/23 (土)	学習会 講座 No709	山崎ゼミ「今一番ホットな原発問題」 予約の必要はありません 14時より17時 お 話:山崎久隆さん(たんぼぼ舎共同代表) 参加費:800円
10/25 (月)	学習会 講座 No708	「ウイシュマさん死亡事故から考える 日本の入管制度の歴史」 19時より21時 <u>予約が必要です</u> お 話:金 東鶴さん 参加費:800円
10/27 (水)	学習会 講座 No704	「電力システム改革と脱原発」 18時より21時 <u>予約が必要です</u> お 話:吉田明子さん(国際環境NGO FoE japan) 講師のお話は 19時からです 参加費:800円



9月11日御茶ノ水駅前
東海第二再稼働反対
一斉行動の日
←駅前アピール
シール投票→



ALPS空調系フィルターが全損 原因不明のまま、ALPS再稼働 東京電力の安全姿勢欠如が再びあらわに

山崎久隆（たんぽぽ舎共同代表）

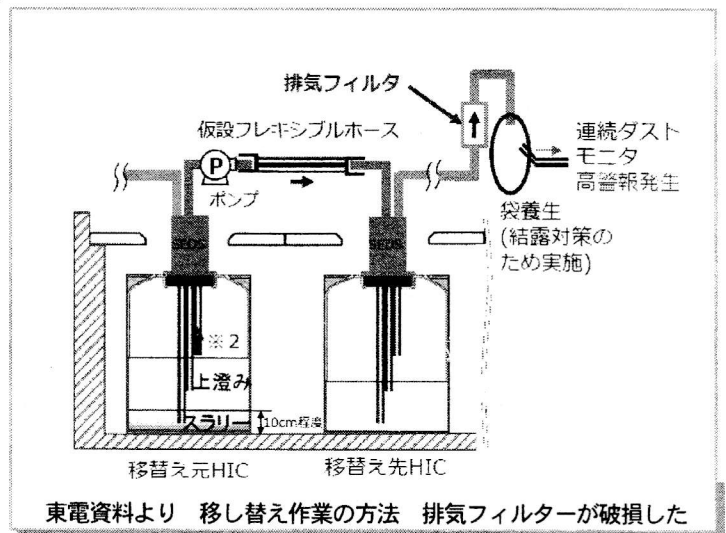
1. 汚染水スラリー処理でフィルターが破損

福島第一原発で汚染水を処理する「多核種処理設備」ALPSのフィルター「HIC排気ラインの排気フィルター」破損が明らかになった。

以前から大きな問題になっていた「ALPS処理時に出たスラリーの処理」。これは、ALPSを処理した際に生じるいわば「汚泥」だが、この汚泥には大量の放射性物質が含まれるため、極めて取扱いが難しい。現在は「HIC（ヒックHigh Integrity Container：高性能容器）」と呼ばれるポリエチレン製の容器に詰められて、コンクリート製の「ボックスカルバート」に収納され、敷地南側に貯蔵されている。

しかし大量の放射線を浴びるHICは劣化しており、長時間貯蔵し続けることは出来ない。高線量のスラリーを貯蔵しているHICについては、容器の健全性が失われる前に移し替えをしなければならない。東電は8月5日より試験的にまず、低線量のHICの移し替え作業を開始した。

この作業はベータ線源であるストロンチウム90やイットリウム90が支配的な高線量のスラリーを扱うことから、ダスト飛散抑制・汚染拡大防止対策を取りながら行う。局所排風機でダストを吸気するとともに、作業エリアにおけるダスト濃度を連続監視し、作業員の被ばく対策としてはHIC開口部に近接する作業では、スラリーからの外部被ばくを抑制するためアクリル製フェイスシールド、ベータ線遮へいスーツといった防護装備を使用する。



さらに内部被ばく対策も必要だが、ホールボディカウンターを用いた内部被ばく線量の算定はベータ線の透過力が低いとわからないので、HICの蓋を開放して行う作業は、エリア退出モニターでの汚染確認に加えて、作業エリアのダスト濃度と入域した作業員の作業時間の管理を行い、内部被ばく線量が2ミリシーベルト未満であることを担保し管理するとしていた。

また、HICの蓋を開放して行う作業時は、作業後に作業員全員の鼻腔スミア測定を実施するという。

作業開始後、低線量HICの1基目のスラリー移し替え作業を始めたところで作業が中断された。排気フィルターの出口ダスト濃度が上昇したからだが、その原因がフィルターの破損だったことから、問題が顕在化した。

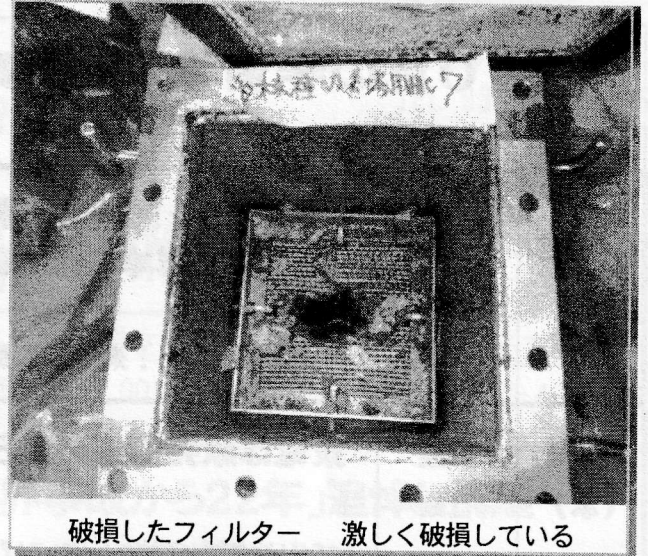
2. フィルターの破損で作業員が危険にさらされる

8月24日、増設ALPSを設置している建屋内で、スラリーを詰めた容器の移し替え作業を実施中、移し替えの

HICに接続したスラリー移替装置 (SEDS) の排気ライン出口で作業用に仮設置した「連続ダストモニター」のダスト濃度高警報が発生し、作業が一時中断され点検が実施された。



破損していないフィルター



破損したフィルター 激しく破損している

時中断され点検が実施された。

排気ライン出口の高性能フィルターを点検したところ損傷があることが順次発見されて、8月30日までは全部で25基のフィルターのうち24基が損傷していた。事実上全滅だった。

高警報発生の原因は排気フィルターの損傷によるものと推定され、東電は増設ALPS建屋周辺の連続ダストモニター指示値には有意な変動がないことや、当該作業においては作業員は適切な防護装備を着用しており、身体汚染もなかったことを確認し、環境への影響はないと結論づけて規制委に報告している。

しかし必ずしもそうとは言えない。

アルプス内のダストモニターはフィルターのある場所からは離れており、ダストが拡散してもモニターにまで届いていないかも知れない。また、放射線モニターではベータ線源の放射線を測定することは出来ない。つまりモニターに感応しないからと言って環境中に拡散していないとはいえない。

個人被ばくについても、エリア内の防護区域外では個人防護装備は付けていないので、吸い込んでしまう可能性は否定できない。

作業員も建屋外部の人についても危険がないと結論づけられる状況ではない。

3. フィルターの破損を放置した東電

そもそもフィルターの破損原因は分かっておらず、排気中のミストが原因であるとした場合、通常運転のALPSにおいてもそうした破損を引き起こすだろう。

8月のフィルター損傷について明らかにされたのが9月2日、この5日後の7日にはもうALPSは再稼働している。東電が規制委に報告し、議論が行われたのは再稼働した後だった。

このフィルターは2年前にも同様の破損があり25カ所全部損傷していたことが、この審査会合で初めて明らかにされ、規制委担当者も言葉を失った。当時は単にフィルター交換をただけで、報告はもちろん、何の対策も取らなかった。

破損原因を調べないまま今まで運転を続け、そのことを公表もしていなかった。フィルター破損を今日まで放置してきたのは、安全軽視も甚だしい。

このことは9月13日に開催された規制委員会の「第93回特定原子力施設監視・評価検討会」でも問題とされ、東電の体質に問題があると指摘されている。

特に規制委は、東電から自発的な報告がなかったことは問題であり、東電についてはフィルターの問題だけでなく、様々なところでこうした問題を抱えていて、管理姿勢としては大きな問題があるとの認識になった。

だが、このような会社に、福島第一原発の廃炉作業を続けさせていて良いのかを問わなければならないし、規制委が汚染水放出を認めることなどあってはならない。

また柏崎刈羽原発の再稼働を認めることなど出来ない。規制委の姿勢も問われているのである。